

収蔵作品展 「再会—17人のアーティストによる伝言」

再 会

Collection Exhibition: Meet Again -Messages from Seventeen Artists-

17人のアーティストによる

伝 言

【展覧会概要】

展覧会名：収蔵作品展「再会—17人のアーティストによる伝言」

作家名：INFORMATION FICTION PUBLICITÉ (IFP)、マグダレーナ・アバカノヴィッチ、
飯川雄大、磯崎新、上田薫、河口龍夫、クリストとジャンヌ＝クロード、小清水漸、
徐冰、杉山知子、辰野登恵子、長澤英俊、野村仁、日高理恵子、
クリスチャン・ボルタンスキー、宮脇愛子、ロバート・メイプルソープ

会 期：2026年11月7日(土)～2027年1月31日(日)

開場時間：10:00～18:00(入場は17:30まで)

会 場：水戸芸術館現代美術ギャラリー

休 館 日：月曜日(ただし11月23日、1月11日は開館)、11月24日(火)、
年末年始(2026年12月27日(日)～2027年1月4日(月))、1月12日(火)

入 場 料：一般900円、団体(20名以上)700円

高校生以下／70歳以上、障害者手帳などをお持ちの方と付き添いの方1名は無料

※年齢のわかる身分証明書などが必要です

●一年間有効フリーパス「年間パス」2,000円

●学生とシニアのための特別割引デー「First Friday」

→ 学生証をお持ちの方と65歳～69歳の方は、毎月第1金曜日(11月13日、12月4日、1月8日)100円

※学生証、年齢のわかる身分証明書が必要です

主 催：公益財団法人水戸市芸術振興財団

協 力：サントリーホールディングス株式会社

企 画：竹久侑(水戸芸術館現代美術センター芸術監督)

本展では収蔵作品を通して、水戸芸術館現代美術センターが開催してきた展覧会の軌跡を辿ります。

当館は、1990 年の開館以来、美術館の中でもとりわけクンストハレ（ドイツ語で企画展に特化した展示施設）として、作品の収集・保管を主な目的とせず、展覧会等の自主企画に重点を置いた活動を行ってきました。そのため、当館が収蔵してきたのは、開館前に購入した作品のほかはいずれも、企画事業に招聘したアーティストによる作品です。それらは当館で行われた展覧会の出品作品そのものか、あるいは当館が紹介したアーティストの代表的な作品にあたります。つまり、これら収蔵作品は、水戸芸術館現代美術センターによる展覧会の証であるとともに、同時代を生きるアーティストたちがそれぞれの方法で貫いてきた創作の一つの結晶であるといえるでしょう。

本展では開館直前の 80 年代末に収蔵した作品から 2026 年の新規収蔵まで、これまで当館では展示機会がなく初めて展示する作品を含む、およそ 50 点を展覧します。手法・ジャンルは、彫刻から絵画、写真、インスタレーション、そして体験型作品まで幅広く、制作年も 1960 年代から 2020 年代に及びます。なかには当館のギャラリーにあわせて構想された作品もいくつかあり、それらはアーティストによる空間との対話の産物として、文字通り「ここ」でしか鑑賞できません。素材そのものを探究する表現から、もう一つの世界へ想像を促すもの、また悠遠な時間や壮大なスケールあるいは負の歴史を通して「生きること」に想いを巡らせるものまで、アーティストたちは静かに、しかし雄弁に語りかけます。

さあ、アーティストたちが作品に託した伝言に、再び会いましょう。

この展覧会では現代美術が初めての方やお子さんにも作品を楽しんでいただけるよう、趣向を凝らした解説と鑑賞ガイドを作成します。

【本展のポイント】

●企画展に特化したクンストハレとして運営してきた水戸芸術館現代美術センターが、その活動の中で収蔵してきた 17 人の作家による代表的な作品が一堂に展示されます。

開館以来 36 年間にわたり現代美術と人びととの出会いを創出するため様々な展覧会を開催してきた水戸芸術館現代美術センター。その展覧会の軌跡を辿ることにより、現代美術の持つ多様性と魅力に触れることができます。

●当館ギャラリー空間に合わせて構想あるいは配置された作品を再び展示します。

現代美術の表現形式であるインスタレーションや、当館ギャラリー空間にあわせて配置された彫刻作品を、作家指示に基づき再び展示します。



(左) I INFORMATION FICTION PUBLICITÉ (IFP) 《アナザーワールド〈空の眺め〉》1992 年

(右) 小清水漸《浮くかたち〈八艘・四杯・三隻・一片〉》1987 年、

「アートシーン 90-96 水戸芸術館が目撃した現代美術」1997 年 撮影：齋藤剛

●作家本人や関係者を招いて展示作品の制作経緯や核心に迫ります。

日本を代表する彫刻家の一人である小清水漸を招いて、対談を通して作家活動について掘り下げます。また、クリストとジャンヌ＝クロードによる、茨城県北部とカリフォルニア州で一斉に展開された伝説的な「アンブレラ」プロジェクトを、映画上映と当時をよく知る関係者のトークによって改めて振り返ります。



(左) クリスト《アンブレラ、日本とアメリカ合衆国のジョイント・プロジェクト》1988 年
(右) クリスト《アンブレラ、日本とアメリカ合衆国のジョイント・プロジェクト》1987 年
(c) 2026, Christo and Jeanne-Claude Foundation

●修復された作品や新規収蔵品を展示します。

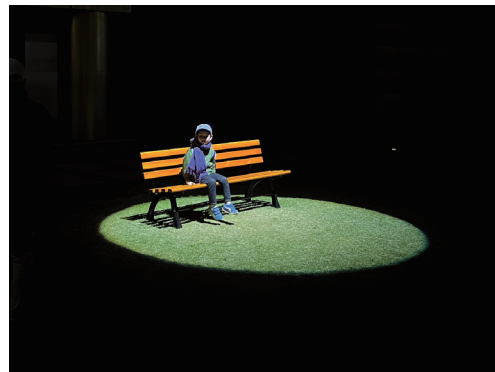
本展にあわせて修復した宮脇愛子やマグダレーナ・アバカノヴィッチの作品を展示。また、当館で本年開催された「飯川雄大 大事なことは何かを見つけたとき」展で当館の建築にあわせて制作され、このたび寄贈された作品を展示します。



宮脇愛子《作品 TL11-0》1962 年



マグダレーナ・アバカノヴィッチ《ベンチの上の立像》1989 年



飯川雄大《うわさを作る一夜のうわさ》2026 年 撮影：飯川雄大

●初めての方や子どもたちにも現代美術を楽しんでいただけるよう、やさしい解説と鑑賞ガイドを用意します。

展示作品についてわかりやすい言葉で書いた解説文を会場に掲示します。また、小学校中学年を対象にした鑑賞ガイドを用意するなど、現代美術に慣れていない方やお子さんにも、それぞれの作品の内容及び魅力を感じていただけるよう工夫します。

【関連プログラム】

- ・記載がない限り、参加費無料（要観覧券入場券）、開場は開始 30 分前、どなたでもご参加いただけます。
- ・申込方法等各プログラムの詳細は当館ウェブサイトでご案内します。



■ オープニングイベント 小清水漸×加治屋健司 対談

「もの派」の中心メンバーである小清水漸による《浮くかたち〈八艘・四杯・三隻・一片〉》（1987 年）と「赤と木」シリーズ（1988 年）は、当館開館前に収蔵された作品です。この二作品を中心に、「人間と物質」展*（1970 年）などに触れながら、現代を代表する彫刻家の一人である小清水漸の作家活動について、美術史家の加治屋健司との対談を通して掘り下げます。

登壇：小清水漸（彫刻家、京都市立芸術大学名誉教授）、
加治屋健司（美術史家、東京大学大学院総合文化研究科教授）

日時：11 月 7 日（土）14:00 ～ 15:30

会場：会議場

定員：80 名（申込不要・先着順）

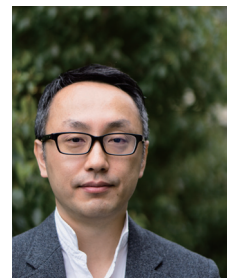
小清水漸（こしみずすすむ）

1944 年愛媛県（宇和島）生まれ、1966 年から 1970 年まで多摩美術大学彫刻科在籍、現在は宝塚市在住。1960 年代後半から 70 年代にかけて「もの派」の中心メンバーとして活動。1970 年「第 10 回日本国際美術展《人間と物質》*」、その後 1971 年「第 7 回パリ青年ビエンナーレ」、1976 年、1980 年「第 37 回、第 39 回ヴェネチア・ビエンナーレ」など大型国際展をはじめ国内外で多数の展覧会に参加、現代日本を代表する彫刻家の一人。京都市立芸術大学で 30 年にわたり教鞭をとり、宝塚大学で学長を務めるなど後進の育成にも尽力。1980 年第 11 回中原悌二郎賞、1981 年第 10 回平櫛田中賞、1988 年度芸術選奨文部大臣新人賞、2003 年第 2 回円空大賞など受賞多数。2004 年紫綬褒章受章。



加治屋健司（かじやけんじ）

1971 年生まれ。東京大学大学院総合文化研究科教授、東京大学芸術創造連携研究機構長。ニューヨーク大学大学院美術研究所博士課程修了。PhD（美術史）。専門はアメリカと日本を中心とした現代美術史。著書に『絵画の解放 カラーフィールド絵画と 20 世紀アメリカ文化』（東京大学出版会、2023 年）、編著に『宇佐美圭司 よみがえる画家』（東京大学出版会、2021 年）、共編著に『中原佑介美術批評選集』全 11 巻（現代企画室 + BankART 出版、2011-26 年）、From Postwar to Postmodern, Art in Japan 1945-1989: Primary Documents (New York: Museum of Modern Art, 2012) など。



*「第 10 回日本国際美術展《人間と物質》」（1970 年）のコミッショナーを務めた中原佑介氏は、1988 年 12 月から 1990 年 9 月まで当館美術部門の芸術総監督を務めた。

■ トークイベント 歴代芸術監督に聞く！

当館現代美術センターの歴代芸術監督が在任時に担当した展覧会や交流のあった作家について、展示作品を中心に語ります。

●逢坂恵理子（前国立新美術館長）

主にクリスチャン・ボルタンスキー、磯崎新、宮脇愛子、徐冰について。

日時：11月22日（日）14:00～15:00

会場：現代美術ギャラリー ワークショップ室

定員：60名（申込不要・先着順）

●清水敏男（アーティスト・ディレクター、美術評論家）

主にマグダレーナ・アバカノヴィッチ、ロバート・メイプルソープ、INFORMATION FICTION PUBLICITÉ (IFP)、長澤英俊について。

日時：1月10日（日）14:00～15:00

会場：現代美術ギャラリー ワークショップ室

定員：60名（申込不要・先着順）

逢坂恵理子（おおさかえりこ）

前国立新美術館長。東京都生まれ。学習院大学哲学科卒業芸術学専攻。水戸芸術館現代美術センターの主任学芸員、同芸術監督を経て、森美術館のアーティスティック・ディレクター、横浜美術館館長を歴任。国立新美術館長並びに独立行政法人国立美術館理事長を兼務し、2026年3月、任期満了で退職。2000年「第49回ヴェネチア・ビエンナーレ」日本館コミュッショナー、「ヨコハマトリエンナーレ」では2011年の第4回から2017年の第6回まで総合ディレクター、コ・ディレクター等を務めるなど、現代美術の国際展にかかわる。



清水敏男（しみずとしお）

アーティスティック・ディレクター、美術評論家、TOSHIO SHIMIZU ART OFFICE 代表取締役、学習院女子大学名誉教授。1953年東京生まれ。ルーヴル美術館大学修士課程修了後、東京都庭園美術館キュレーター、水戸芸術館現代美術センター芸術監督を経て、1997年にTOSHIO SHIMIZU ART OFFICEを設立。上海ビエンナーレ芸術監督など国内外で展覧会や文化プロジェクトを手がけ、東京ミッドタウン等のパブリックアートディレクションを行う。現在は学習院女子大学名誉教授、公益財団法人新宿未来創造財団理事、公益財団法人徳間記念アニメーション文化財団評議員。フランス共和国芸術文化勲章「シュヴァリエ」受章。



■ アーティスト・トーク 日高理恵子

活動初期から一貫して「樹」をモチーフに、日本画の画材を用いて、真下から見上げる視点で、木の枝や葉とその先に広がる空を描いてきた日高理恵子。「樹を見上げて」のシリーズ（1988-）を中心に、日高が立ち上げる独特の絵画空間について語ります。

日時：12月12日（土）14:00～15:00

会場：現代美術ギャラリー ワークショップ室

定員：60名（申込不要・先着順）

■ ワークショップ 日高理恵子と木を見上げる（要申込・有料）

日高理恵子と当館広場にある木を見上げ、作家と話をしながら、木を見た体験を紙に描きます。「見る」ことを新たに経験するワークショップです。

※天候不良の場合は、プログラムを屋内に変更して実施します。

日時：12月13日（日）14:00～16:00

会場：現代美術ギャラリー、広場

対象：中学生以上／定員：20名程度（先着順）

参加費：有料（料金は決定次第、ウェブサイトにてご案内します）

申込開始：11月5日（木）10:00



日高理恵子《樹を見上げて VI》1992年

日高理恵子（ひだかりえこ）

画家。1958年東京都生まれ。1985年武蔵野美術大学大学院造形研究科美術専攻修了。1995～1996年文化庁芸術家在外研修員としてドイツに滞在。主な個展に「近作展 22」（国立国際美術館、大阪、1998年）、「The Space of Trees」（アートカイトミュージアム、ドイツ、2003年）、「樹」（北の大地美術館、北海道、2004年）、「空と樹と」（ヴァンジ彫刻庭園美術館、静岡、2017年）、「退任展 日高理恵子 空間と、自然光と、絵と、」（多摩美術大学 八王子キャンパス アートテークギャラリー、東京、2025年）等。作品は水戸芸術館をはじめ、国立国際美術館、東京国立近代美術館、東京都現代美術館などに所蔵されている。



■ ドキュメンタリー映画『アンブレラズ』上映+ポストトーク

1991年、クリストとジャンヌ＝クロードは、カリフォルニア州（米国）と茨城県北部で、二階建てほどの高さがある巨大な傘3,100本が一斉に開く風景を創りあげた。《アンブレラ、日本＝アメリカ合衆国、1984-91》の構想から実現までの膨大な交渉、地権者や地域住民との対話、そして自然の圧倒的な力に直面するさまを捉えた『アンブレラズ』（1994年、アルバート・メイズルス監督）を上映。長年にわたりクリスト側スタッフを務めた柳正彦と当時当館現代美術センター芸術監督であった清水敏男によるポストトークにより、この伝説的なアートプロジェクトを振り返ります。

日時：11月11日（月・祝）上映15:00～16:21 上映後トーク30分程度

会場：ACM劇場

定員：170名程度（申込不要・先着順）

観覧料金：無料 ※ただし、展覧会入場券が必要

登壇：柳正彦（アート・アーカイヴィスト）、清水敏男（アーティスト・ディレクター、美術評論家）

■ 赤ちゃんと一緒に美術館散歩

小さなお子さんと一緒に、安心して気兼ねなく美術館を楽しんでいただくためのツアーです。

日時：2027年1月21日（木）、23日（土）各日10:30～12:00

会場：現代美術ギャラリー

定員：5組程度 ※要申込／先着順

料金：保護者のみ1,500円、入場料無料の保護者1,000円

※保護者2人目からは通常入場料

申込開始：11月25日（水）10:00



■ ウィークエンド・ギャラリートーク

市民ボランティア CAC ギャラリートーカーとともに対話を通して展覧会を鑑賞します。

日時：11月21日（土）より毎週土曜日 各日14:30～40分程度

※ただし、他のプログラムとの関連で中止となる場合があります。

会場：現代美術ギャラリー

料金：無料 ※ただし、展覧会入場券が必要



【同時開催】

■ 「こども芸術の祭典」

県民の日一日限定企画。高校生以下のお子さま連れの大人1名は展覧会を無料でご覧いただける特典があります。学芸員による小中学生対象の鑑賞ツアーなども実施します。詳細はウェブサイトでご案内します。

日程：11月13日（金）

主催：こども芸術の祭典実行委員会、水戸市教育委員会、公益財団法人水戸市芸術振興財団

協賛：水戸信用金庫

■ 「明後日朝顔プロジェクト2026水戸」収穫祭

「HIBINO EXPO 2005 日比野克彦の一人万博」展をきっかけに全国に広がった「明後日朝顔プロジェクト」を今年も開催しています。秋の種の収穫、春の苗植え、夏の開花という朝顔の育成を通して、人と人が出会い、地域と地域がゆるやかにつながっていくプロジェクトです。来年に向け、水戸での記憶のつまった種を収穫します。

日程：11月14日（土）（小雨決行、荒天時翌日順延） 会場：広場回廊2階

主催：明後日朝顔プロジェクト水戸実行委員会、公益財団法人水戸市芸術振興財団、株式会社水戸京成百貨店、水戸市民会館

■ またきて美術館

水戸市の小学4年生が展覧会を鑑賞するミニツアーを行います。 ※当日、混雑が生じる時間帯があります。

日程：12月1日（火）～3日（木）、8日（火）、9日（水）

【貸出図版】

展覧会広報用にデータを貸し出しますので、ご要望の方は鳥居までお問合せください。

1



4



2



5



3



1. 小清水漸《浮くかたち〈八艘・四杯・三隻・一片〉》1987年
水戸芸術館蔵 水戸芸術館現代美術ギャラリーでの展示風景、1997年
撮影：齋藤剛
2. 参考図版：飯川雄大《うわさを作る一夜のうわさ》2026年
撮影：阪中隆文
3. 長澤英俊《花々のくに》1985年 水戸芸術館蔵
水戸芸術館現代美術ギャラリーでの展示風景、2020年 撮影：根本譲
4. 杉山知子《each-all》2005年 水戸芸術館蔵
5. INFORMATION FICTION PUBLICITÉ (IFP)
《アナザーワールド（空の眺め）》1992年 水戸芸術館蔵

プレス向け内覧会のお知らせ

2026 年 11 月 6 日（金） 14:00 ～ 15:30 受付開始 13:30

場所：水戸芸術館現代美術ギャラリー

出席者：竹久侑（水戸芸術館現代美術センター芸術監督）

小清水 漸氏（収蔵作家、彫刻家、京都市立芸術大学名誉教授）に一部同席いただきます。

【お問合せ】

水戸芸術館現代美術センター

〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8 Tel.029-227-8120/Fax.029-227-8130 <https://www.arttowermito.or.jp/>

展覧会について：竹久侑（芸術監督）

教育プログラムについて：森山純子、中川佳洋（教育プログラムコーディネーター）

広報・写真貸出について：鳥居加織（広報） e-mail:cacpr@arttowermito.or.jp

* 詳細は公式X https://x.com/MITOGEI_Gallery でも配信いたします。

【記事掲載についてのお願い】

- 1) 掲載にあたっては、正式展覧会名称と会期の表記をおこなってください。
- 2) 写真を掲載する場合は、写真に添付してあるキャプション・クレジット等を正確に表記してください。
- 3) 誌面掲載する電話番号は、水戸芸術館代表番号029-227-8111でお願いいたします。
- 4) 掲載記事とVTRは、資料として保管いたしますので水戸芸術館現代美術センター鳥居までご送付ください。
- 5) 取材及び収録等の取材は、必ず事前にお問い合わせください。都合により取材に応じることができない場合がございます。

【交通のご案内】

[JR] 東京駅（品川、上野発もあり）から常磐線特急で約72分～84分、水戸駅下車。
北口バスターミナル4～7番のりばから「泉町1丁目」下車。徒歩2分。

[高速バス] 東京駅八重洲南口バスターミナルのりばから高速バス「みと号」水戸駅行き（赤塚経由）で約100分、
「泉町1丁目」下車、徒歩2分。

[お車] 常磐自動車道水戸ICから国道50号線を水戸市街地方面へ約20分。
◎市営五軒町駐車場があります。
地下駐車場（217台）7:00～23:00
立体駐車場（283台）24時間
料金：30分まで無料、1時間まで200円、以降30分ごとに100円 1日上限700円

【お知らせ】

今後のプレスリリースの発行を郵送からメルマガ配信へと移行します。配信への移行を希望される方はメールアドレス・ご所属・ご氏名を cacpr@arttowermito.or.jp までご連絡いただくか、QRコードを読み込みの上、お申込みください。

